



都井岬灯台を訪れた際の展望台から見える景色を撮る様子

「なんもかわらん」

私は串間の仲町で生まれ、結婚を機に上京しましたが、小さい頃から「何もない田舎からできるだけ遠くに脱出したい」とひそかに思っ子でした。

何かにつけて「人さまに後ろ指を指されるようなことはするな」と厳しい祖母に言われ、少し人と違った事をすると思われたものです。こんな私でしたので東京は私にとって居心地の良い場所でした。ここなら人の目を気にすることなく何でもできる、何でも手に入ると思いました。

子育てをしながらやりたい仕事をするために学校へ行き、資格を取り、3番目の夢「お花屋さんになりたい」という夢を叶え、教室も持てましたが、好きな仕事でも山あり谷ありはつきもので、人と同じ事をしているとは試行錯誤の毎日でした。そんな時にふと原点に返るのか、なぜか故郷の海が見たくなるのです。どんな美しい海を見ても頭に浮かぶのは不思議と故郷の海なのです。

たくさんお花に触れると自然に咲く一輪の花が一番きれいで美しく、見る人の気持ちで美しくも優し

くも、また、悲しくも見える事を知りました。その中で、友人の死に泣きながら束ねた花や遠く離れた人にお供えのアレンジを生ける時の思いは、変わらない故郷や親への思いに似たものがありました。

一度地元を離れるとなかなか帰省する事ができなくなりますが、美しい風景は変わることなく思い描くことができ、私の支えになりました。

「ふるさととは遠きにありて思ふもの…」とありますが、この複雑な心境は故郷を離れて初めて理解できました。定年を迎え親と同居を考え故郷に帰る友。故郷を一度離れてから戻ることの不安な気持ちがあるにはありますが、串間にはいつ帰っても受け入れてくれる変わらない場所があり、友がいます。「串間はどんなふう」と尋ねると「串間はなんもかわらん」と返ってくる言葉が、今では心地良く思えるのです。

なにも変わらない田舎が大嫌いだっただけが、都井の岬から見ると美しい風景や夕方方々時になると人気がなくなる仲町通り、私が一番おもしろいと思う大束の芋、そしていつでも



しんぼし ゆうこ  
新祐子 (59歳)  
串間市出身。21歳から上京し、花屋の仕事と子育てに奮闘。現在は仕事を退き、福岡県内に住み孫たちの子育てに励む。

温かく迎えてくれる友はいつまでも変わらないでいてほしいです。

加速する世の中に危機感を持つこの頃、幼い頃商店街の頑固おやじにゲンコツをもらったことやわが子のようにかわいがってくれた叔母さんたちが妙に懐かしいです。

現在は仕事を退き、第2の子育て(孫たち)に奮闘していますが「あゝでもないこゝでもない」と半ば頑固ババアと思われても、時代は変わっても、変わらない故郷の風景や文化、お世話になった方々への思いは今後も大事にしていきたいです。また、私が経験した事を少しでもつなげたいと日々思っています。「なんもかわらん」事こそが大切な事なので……

今年還暦を迎える私ですが、少し考え方が変わってきました。「なんもかわらん」事はすごい事だと。

TOPIC

宮崎県社会教育功労者表彰「福添忠義さん」  
宮崎県社会教育優良団体表彰「金谷小PTA」



福添忠義さんは、社会教育委員、体育協会長の立場から、スポーツ全般の活性化、市民の健康増進、社会教育の充実・発展に大きく貢献された功績が認められ、宮崎県社会教育功労者表彰を受賞されました。

金谷小学校PTAは、「魚食体験」、「つるし柿作り体験」、「金谷浜日帰りキャンプ」など地域の資源を活用した活動を積極的に実施し、保護者・地域・学校が連携した地域ぐるみの青少年健全育成に大きく貢献していることが評価され、宮崎県社会教育優良団体表彰を受賞されました。

TOPIC

高速道路の利活用を考える会議が開催されました



1月24日、東九州自動車道の開通を見据え、高速道路の利活用を考える「日南・串間東九州自動車道利活用促進協議会」(会長:串間市長)が開催され、日南、串間市の経済団体などの関係者ら約30人が出席しました。道の駅整備、港湾整備の取り組みの紹介や意見交換などが行われ、今後の県南地域全体のさらなる活性化を目指すため理解を深めました。

TOPIC

宮崎県公民館連合会  
優良公民館報表彰「寺里自治会」



寺里自治会は、毎月「寺里自治会通信」を発行されています。自治会への加入、ゴミ問題、防災など重要なテーマを取りあげ、文字を大きくしたり、写真を取り入れるなど、高齢者や転入者にもわかりやすい工夫を行い、継続的に発行されていることが認められ、宮崎県公民館連合会優良公民館報表彰を受賞されました。

TOPIC

旧吉松家住宅で  
防災訓練実施



1月24日、文化財防火デー(1月26日)に合わせて国の重要文化財に指定されている旧吉松家住宅で防災訓練が実施されました。指定管理者である旧吉松家住宅を支える会のメンバーや消防本部、地元住民ら約20人が参加し、文化財の搬出や住宅内の消火設備を使った消火活動などを行い、火災発生時の対応を確認しました。